

# 2008津別ウッドクラフト展

今年のテーマは「あったらいいなあ、こんなもの」

～時計、カレンダー、ペン立て、テーブル、椅子、小物入れ、学用品など  
使って楽しい、飾って楽しい子ども部屋を彩る「木」の用品を募集します～

私たちは森の恵みや大切さを理解していても、生活の中ではつい忘れがちです。

日常の暮らしの中で、使いながら木や森の良さを身近に感じられるようなものがあれば、もっと自然と仲良くなれるように思います。

生活の中にある用品が「使って楽しい、飾って楽しい」をキーワードにした木工クラフトとして生まれてくるよう、クラフト展を実施します。

みなさんからの応募をお待ちしています。

審査員特別賞  
ピアノボード



2007ウッドクラフト展  
大人の部最優秀作品  
「テタテューラ」



2007ウッドクラフト展  
子どもの部最優秀作品「馬の花子」

## 作品の搬入・搬出場所

・場所 つべつ木材工芸館 ☎0152-76-3335  
〒092-0225 網走郡津別町字共和127-7

・日時 搬入日時/10月7日(火)～10月13日(月)  
午前10時～午後4時  
搬出日時/11月5日(水)～11月9日(日)  
午前10時～午後4時

大人の部 最優秀賞(1点)(賞金により買い取り)  
賞金10万円

優秀賞(3点) 賞金3万円

子どもの部 最優秀賞(1点)(図書カードにより買い取り)  
図書カード3万円

優秀賞(3点) 図書カード1万円

部門共通 審査員特別賞(2点) 賞金1万円(子どもの場合は図書カード)

審査会 10月17日(金)

展示会 期間/10月18日(土)～11月3日(月)  
場所/つべつ木材工芸館

応募・問い合わせ先 津別町役場 産業課林政・商工  
観光グループ

〒092-0292 網走郡津別町字幸町41

☎0152-76-2151(内線259)

FAX 0152-76-2976

E-mail sangyo1@town.tsubetsu.hokkaido.jp

出品申込書は津別町のホームページからもプリントアウトできます。

http://www.town.tsubetsu.hokkaido.jp/

応募受付期限 平成20年9月30日(火)必着

応募資格 どなたでも応募できます。

応募部門 大人の部と子どもの部(中学生以下)

応募規定(作品規定)

- ① 作品の素材が木(根・葉・実を含む)であること。  
もしくは、木が重要な機能を果たしているもの。
- ② 作品の縦・横・高さの合計が180cm以内であること。
- ③ 未発表の作品であること。
- ④ 応募点数は1人5点まで。

応募方法 所定の申込書により必要事項を記入し、右記へ郵送または持参ください。(FAX・メール可)

出品料 無料(搬入、搬出に要する経費は出品者の負担とします)



果敢なプレーでゴールに攻めこむ選手

「津別フットサルカップ2008」(津別フットサルの会主催)が6月29日農業者トレーニングセンターで開催されました。今回の大会は1月に行われた西洋軒フットサルカップが好評につき実施することとなり、町内外合わせて8チームが参加。試合は、前・後半各10分ずつリーグ戦で行なわれ、津別FCが優勝しました。会場の外には2つの出店も設けられ、趣向を凝らした大会となり、主催代表の河本純吾さんは「今回は若い人たちが中心となって取り組みました。出店は初めての試みで不安もあったけれど成功しました。試合もケガ人が出ることなく無事終えることができ、冬には3度目の開催をしたい」と意欲的に話してくれました。



キャラバン隊が来町  
本を読み親子がふれあう

7月12日、中央公民館に全国の子どもたちに読み聞かせの輪を広げようと「全国訪問おはなし隊」のキャラバンカーが児童書550冊と一緒にやってきました。これまで、キャラバンカーは全国1万を超える会場を訪れていて、津別町におはなし隊がやってくるのは2年ぶり2回目となります。この日は、約60人の親子連れが集まり、子どもたちはキャラバンカーから選んできた絵本をお父さんやお母さんと楽しそうに読んでいました。この後、講堂ではおはなし隊による紙芝居「シヨコちゃんのおでかけドライブ」や大きな本「おじさんのかさ」などの読み聞かせを行い、楽しいひとときを過ごしました。



グレステンスキーの普及を！  
製造元から10台の寄贈

新潟県に本社を置くホンマ科学株式会社の事業推進本部長で双葉高校スキー部監督でもある中嶋八夫さんが6月18日に役場を訪れ、町にアルペンスケート10台を寄贈されました。同社はグレステンスキー用具を開発・製品化している会社で「グレステンスキー普及のため津別町に贈りたい」との本間社長からの意向が佐藤副町長に伝えられました。中嶋本部長は「基礎づくりに最適で、スキーの夏合宿などで使ってほしい。『津別で練習できたから良い成績を収められた』と言われるようになればいい」とも話していました。

第58回社会を明るくする運動「ふれあい町民のつどい」が7月15日、中央公民館で開かれました。

最初に、小中学生を対象に募集した「社会を明るくする標語」の表彰式が行われ、最優秀賞を受賞した本岐小学校4年の迫田朱里さんと津別中学校1年の鈴木翔太くんが表彰を受けました。(今月号お知らせ10ページに掲載)

続いて、元本岐中学校教頭でNPO法人こどもみらい事務局長の佐藤知義さんが「揺れながら成長する子供の心が観えていますか」をテーマに講演を行い、不登校となった生徒と向き合ってきた体験談や子どもに親がどう接するかなどについて話をされました。



ふれあい町民のつどい開催  
NPO法人の佐藤さんが講演